

競技注意事項

1 本大会は、2018年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

- (1) ハードル種目の区分（ハードルの高さ／ハードル間）は次のとおりとする。

少年男子A400mハードル (0.914m)	少年女子A400mハードル (0.762m)
少年男子共通110mハードル (0.991m/9.14m)	少年女子B100mハードル (0.762m/8.5m)
- (2) 投てき種目の区分（重さ）は次のとおりとする。

少年男子Aハンマー投 (6.0kg)	少年男子B砲丸投 (5.0kg)	少年男子共通円盤投 (1.75kg)
	少年女子共通砲丸投 (4.0kg)	少年女子共通円盤投 (1.0kg)
- (3) 小学生招待リレーのスターターの合図は日本語で行う。
なお、不正スタートへの対処は、同一チームが2回行った場合に失格となる。
- (4) 男子100m、少年男子B100m、少年女子B100mで、「決勝」と「決勝②」をおこなう。

2 ウォームアップ・練習について

本大会（競技会）の期間に、練習会場使用日程に示す時間帯で、「17 練習について（練習会場注意事項）」にもとづき練習ができる（練習会場の競技役員の指示に従い練習が可能である）。

3 招集について

- (1) 招集所は、バックスタンドの北側の裏（掲揚台の北側）に設置する。
- (2) 招集開始時刻（点呼開始時刻）及び招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。種目別招集開始時刻・招集完了時刻は、プログラムの競技日程欄を参照のこと。

	種別	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	予選（1～3組）・決勝	25分前	15分前
	予選（4組以降）	15分前	5分前
フィールド競技	跳躍競技（棒高跳を除く）	50分前	40分前
	男子 棒高跳	90分前	80分前
	女子 棒高跳	60分前	50分前
	投てき競技	50分前	40分前
第1日の 投てき競技	少年男子共通円盤投 少年男子B砲丸投 少年男子Aハンマー投	40分前	30分前

ハンマー投は、芝生養生のためNDソフトスタジアム山形での練習試技ができないことから、
競技開始時刻15分前（招集完了時刻25分後）までには、各自で競技区域に現地集合すること。

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとして処理する。
- (4) リレー種目について
「リレー・オーダー用紙」に必要事項を記入し、招集完了時刻の1時間前までに、競技者係（招集所）に提出すること。
- (5) 出場種目を欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所に提出すること。

4 ナンバーカードについて

- (1) 競技者は、競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のナンバーカードをつけなければならない。跳躍競技の競技者は、背または胸につけるだけでもよい（競技規則第143条7）。
また、このほかに、種目によっては腰ナンバー標識と別ナンバーカードを配布する。
腰ナンバー標識と別ナンバーカードは招集所で配布し、フィニッシュ地点で回収する。
- (2) 腰ナンバー標識について
 - ① トラック競技に出場する競技者は、配布された腰ナンバー標識をショーツまたは下半身の左右（サイド中央から後方寄り）につける。
 - ② 4×100mリレー・4×400mリレーでは、最終走者は配布された腰ナンバー標識をつける。
このほか、4×400mリレーの第2・第3走者の腰ナンバー標識は、右側だけでよい。
- (3) 別ナンバーカードについて
 - ① 3000m、5000m、10000m、3000mSC、5000m競歩では、胸と背に別ナンバーカードを使用するので、出場者は競技開始時刻1時間前までに、招集所へ別ナンバーカードを受け取りに来ること。その際、正規ナンバーカードを持参すること。

5 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場内に入場する。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い退場する。競走競技の競技者はフィニッシュラインに到達後、Hゲートから退場するか、当該種目のスタート地点付近のゲートから退場する。スタート地点に戻る際、100m・110mH・100mH・3000mSC は雨天走路を通過してよい。また、200m・1500m・3000m以上の種目は第1曲走路及びバックストレートの部分をスタンド壁面に沿って戻ってよい。なお、決勝において1～3位の競技者は、表彰者控え所に移動する。

6 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順番による。
- (2) トラック競技の決勝の組合せ、レーン順は、招集所の掲示板に掲示する。
- (3) 時間による次のラウンドに進む出場者の決定について、最後の1枠に同成績がいる場合、写真判定員主任が0.001秒の単位の実時間を判定して決定する。それでも同じであれば同成績とする（競技規則第167条5）。
- (4) トラック競技において決勝に進出する条件は、プログラムの「競技日程」の「組着」の欄に記載のとおり（予選の順位と記録をもとに決定）とする。また、トラック競技の一部の種目でおこなう「決勝②」には、決勝に進出する競技者以外の、予選の記録の9番目から16番目の競技者が進出する。
- (5) 決勝②を実施する種目で、決勝に進出する競技者が決勝を欠場しても、決勝②から決勝への繰り上げは行わない。また、決勝②に進出する競技者が決勝②を欠場しても、予選の記録の17番目以降の競技者から決勝②への繰り上げは行わない。

7 競技について

- (1) トラック競技について
 - ① トラック競技の計時は、すべて写真判定システムによる全自動計時（電気計時）を使用する。
 - ② レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
 - ③ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
 - ④ 競技規則第162条8により、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。
 - ⑤ 4×100mリレーの第2、第3、第4走者は、各自用意したマーカー（1カ所）を使用することができる。マーカーは各チームで用意し、レース終了後に取り除くこと。
 - ⑥ 4×100mリレーの全走者間のテイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。
 - ⑦ 4×400mリレーの第3・第4走者は、審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路入り口（200mスタート地点）を通過した順序で、内側より並び待機する。
- (2) フィールド競技について
 - ① 投てき競技の計測は科学計測装置を使用する。ただし、砲丸投については鋼鉄製巻尺計測とする。
 - ② 跳躍及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマーカー（走高跳は助走路内に各自の用意したマーカー）を2個まで置くことができる。また、サークルで行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用することができる。
 - ③ 棒高跳の競技者は、希望する支柱の位置を招集所にある用紙に記入して、招集開始時刻に招集所に提出する。その後、位置を変更したい場合は担当競技役員に申し出る。
 - ④ 公式練習は、試技順に2回行う。
 - ⑤ 三段跳の踏切板は、砂場から男子12m、女子9mの地点に設置する。
 - ⑥ フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
 - ⑦ フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチ席」を設ける。
 - ⑧ フィールド競技の試技時間は、次のとおりである（競技規則第180条17）。

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上（各競技者の最初の競技）	30秒	1分	30秒
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技	2分	3分	2分

- (3) 競技者は、勝手に競技場所を離れること、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない（競技規則第180条19、第144条3(b), 4）。また、競技場内に持ち込まれるバッグの中身は招集所で確認される。
- (4) 上記を含む不当な行為をした競技者には警告が与えられ、場合によっては当該競技から除外される。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らされる。スタート時のイエローカード（競技規則第162条5）については、その種目限りとする。

- (5) 提出書類は次のとおりとする。(用紙は招集所に用意)

提出書類	提出場所	提出時刻
欠場届	招集所	招集開始時刻まで
2種目同時出場届	招集所	第1種目の招集開始時刻まで
リレー・オーダー用紙	招集所	招集完了時刻1時間前まで
アップライト申告書	招集所	招集開始時刻に
記録証明書交付願	役員・庶務係	各競技終了後随時(500円を添える)

8 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまでは次のとおりとする(ただし、天候等の状況により変更することもある)。

種目	種別	練習	1	2	3	4	5	以降	
走高跳	男子	1m65/1m80/1m90	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	3cm	
	女子	1m35/1m50	1m40	1m45	1m50	1m55	1m58	3cm	
棒高跳	男子	3m30/3m80/4m30/4m60	3m40 から 4m80 まで: 10cmずつ				5cm		
	女子	2m10/2m70/3m00/3m50	2m20 から 3m00 まで: 10cmずつ				5cm		

- (2) 棒高跳の公式練習はゴムバーで行う。
 (3) ジャンプオフ(第1位決定戦)におけるバーの上げ下げの幅は、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。

9 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール以外、競技に使用する用具は主催者が用意したものを使用しなければならない。
 ただし、投てき物の持ち込みを希望する競技者は、招集開始時刻30分前から招集開始時刻までに、招集所の競技者係に申し出る。検査に合格した投てき用具は一括して借り上げ、参加競技者間で共有できるものとし、競技終了後に大会本部の役員・庶務係で返却する。なお、借り上げた用具が破損しても責任を負わない。
 (2) 棒高跳用ポールは、個人のもので使用することができるが、跳躍場において跳躍審判員の検査を受けて合格したものでなければならない。

10 競技用靴について(競技規則第143条2, 3, 4, 5, 6)

スパイクの長さは、9mm以内、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクの数は、11本以内とする。

11 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表は、大型スクリーン及びアナウンスで行う。正式発表の時刻は、大型スクリーン表示終了時刻とする。
 (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則第146条に定められている時間内(予選は15分以内、決勝は30分以内)に競技者自身または代理人が、担当総務員を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で待機する。さらに、この裁定に対して上訴する場合は預託金(1万円)を添え、担当総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。

12 表彰について

- (1) 選手権種目(参加は山形陸協登録者の限る)としての各種目の1位から3位の競技者の表彰は、正面スタンド前表彰台で行う。
 該当者は、競技終了後直ちに表彰者控え所(雨天走路中央付近)に各自で移動し、係員から指示を受けること。表彰を行う時刻は競技終了から30分後を目安とするので、入賞者本人が他の競技と重なる場合は、代理人を立てること。表彰時の服装は、原則として競技服装とするが、セパレートのユニフォームの場合は、ジャージ(下)またはハーフパンツを着用してもよい。
 (2) 選手権での各種目の1位の競技者には、選手権章(メダル)と賞状を、2位・3位の競技者には賞状を授与する。
 (3) 国体県予選会としての種目の表彰(優勝した選手にはメダルを授与、1位から3位まで賞状を授与)は実施しない。各自、表彰係より受け取ること。
 (4) 決勝と決勝②を行う種目は、決勝に出場した競技者のみを表彰の対象とする。

13 個人情報の取り扱いについて

- (1) 主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を遵守し個人情報を取扱う。なお、取得した個人情報は、大会の審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者及び主催者が承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

14 一般注意事項

- (1) 競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等に表示されている商標は、日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規程」に示すサイズ・個数を超えてはならない。これに違反したものについては主催者で処置する。
- (2) 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は、総務員（庶務担当）に連絡する。
- (3) 競技場での疾病・傷害等の応急処置は主催者が行うが、以後の責任は負わない。
- (4) 更衣については、メインスタンド下室内の更衣室を利用することができる。更衣室は更衣のみに使用し、荷物は各自で管理する。
- (5) 大会期間中の貴重品の保管は各自で行う。盗難にあってもその責任は負わない。
- (6) 届けられた遺失物については、役員・庶務係で保管する。保管期間は7月8日（日）の競技会終了までとする。
- (7) 記録はその都度アナウンスで発表するが、競技場正面入り口付近の記録掲示板に、印刷物で掲示する。
- (8) 「記録証明書」を希望する競技者は、競技役員（役員・庶務係）に500円を添えて申し込むこと。
- (9) スタンドを含む競技場内への応援用のぼり・旗等の掲出は「競技会における広告および展示物に関する規程」にもとづく。
なお、本競技場では、サイドスタンド及びバックスタンドの最上段での掲出をお願いします。
- (10) 正面スタンド中央部付近でのスタンドから競技者への助言については、大会本部での競技運営の妨げになるので禁止します。

15 応援について

- (1) 集団応援は、観客や他の競技に支障のないようにすること。
 - ① 競技の妨げとなる応援、観客の迷惑になる応援は禁止します。
 - ② メインスタンドでの集団応援を禁止します。
 - ③ サイドスタンド・バックスタンドでの集団応援は中段以上とし、各競技に配慮してください。
トラック競技においては、競技種目や出場競技者を紹介するアナウンスがあれば、静粛にする。
フィールド競技においては、試技を開始しようとしている競技者がいるときは、静粛にする。

16 上位大会への出場について（本大会の実施要項【別記2】参照）

ア 東北総合体育大会について

[1] 参加資格

- (1) 日本国籍を有する山形陸協登録競技者
- (2) 個人種目 各種目上位2名を資格取得者とする。
各種目に山形陸協推薦（1名）がない場合は、上位3番目を資格取得とする。
走高跳及び棒高跳において、同順位による資格者が複数となる場合は、決定試技を行う。
ただし、上位者が辞退した場合は、順次資格取得者を繰り上げる。
- (3) リレー種目 各種目上位2チームを資格取得者とする。
ただし、4×100mリレーで県選抜チームが編成される場合には、上位1チームを資格取得者とする。
上位チームが辞退した場合は、順次資格取得チームを繰り上げる。

[2] 申込み

- (1) 申込みは、各日最終種目終了後、30分以内に手続きを行うこと。
ただし、高校生は、前段の時間まで各個人で個票申込みをするとともに、各高校顧問が、一覧表と参加料をまとめて大会期間中に申込担当庶務係に申込みを行うこと。
なお、宿泊費・交通費等は、本大会の実施要項による。

イ 国民体育大会について

- (1) 山形陸上競技協会代表選手等選考委員会で選考する。
- (2) 成年男子の10000mWの選手は、5000mWの出場者の中から、記録会その他の成績を参考にして、強化委員会で推薦する。
- (3) 本大会に申込みのない競技者は選考対象にならない。
- (4) 国体種目の優勝者については、候補選手とし、個票（個人情報）の提出、及びユニフォーム・ジャージの試着を行う。

17 練習について（練習会場注意事項） 次ページの記載事項・表も参照のこと

- (1) 練習は、各個人及び監督の責任のもと、ウォームアップ場係の指示により、練習会場使用日程に示す時間帯で行い、事故防止には万全を期す。なお、練習中に発生した疾病・傷害等については、応急処置は主催者において行うが、以後の責任は負わない。
- (2) 雨天走路は原則として開放しない（狭い雨天走路での事故防止が目的のため）。ただし、荒天時のみ、雨天走路をジョグとストレッチに限り開放する場合がある。
- (3) 投てき会場では危険が伴うので十分注意して行うこと。なお、使用する投てき用具は各自持参すること。
- (4) 各練習会場のトラックのレーン内において、次の行為を禁止する。
 - ① ミニハードルなどの練習用具をレーン上に置いての練習
 - ② チューブやロープ等でけん引する練習
 - ③ 逆走
 - ④ 準備運動、ドリル等の技術練習
 - ⑤ 急に減速したり、立ち止まったりする行為
 - ⑥ 不用意にレーンを横切る行為
- (5) NDソフトスタジアム山形（主陸上競技場）及びサブグラウンドでの練習は、次のとおりとする。
 - ① 競走路の使用は、原則として以下の通りとする。

各レーンとも、第4コーナーからホームストレートの交点付近は危険なので、特に注意すること。

<NDソフトスタジアム山形のレーンの使用区分>

 - ・周回1～2レーン：中・長距離（800m以上の種目）
 - ・周回3～7レーン：短距離（100m～400m）、リレーの種目
 - ・8～9レーン（第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路）：400mハードル
 - ・6～7レーン（ホームストレート）：スターティングブロック設置可
 - ・8～9レーン（ホームストレート）：100mハードル・110mハードル

※ ただし、当日の競技種目により、レーンの使用区分を変更する場合もある。

<サブグラウンドのレーンの使用区分>

 - ・周回1～2レーン：中・長距離（800m以上の種目）
 - ・周回3～4レーン：短距離（100m～400m）、リレーの種目
 - ・5～6レーン（第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路）：400mハードル
 - ・4～6レーン（ホームストレート）：スターティングブロック設置可
 - ・7～9レーン（ホームストレート）：100mハードル・110mハードル

・ジョギングは、トラック外側の芝生帯で行うこと。

※ ただし、当日の競技種目により、レーンの使用区分を変更する場合もある。
- (6) 競技終了後の高校生・中学生の練習は、各学校の顧問の指導及び責任のもとで行うこと。

18 テントの設営について

- (1) テントを設営する際は、地面とテントの支柱をロープと杭等により固定するか、または支柱にバランスよくテントウエイト（重し：土砂などを入れた袋等（10～30kg程度）を支柱にくくりつける等）を取り付けること。
- (2) 風速3m/秒以上になった時、または3m/秒以下でも軽い突風、つむじ風などが発生した時は、アナウンスによる注意及び指示に従って、安全対策の実施状況を点検し、上記の(1)を徹底すること。また、危険と判断される突風、つむじ風などが発生した時は、テントをたたみ、飛ばされないようにすること。

※ 各種目の練習については、安全に十分留意しておこなってください ※

練習会場使用日程 第71回山形県陸上競技選手権大会 第73回国民体育大会陸上競技山形県予選会

NDソフトスタジアム山形 (主陸上競技場)

	7月6日(金)	7月7日(土)	7月8日(日)
棒高跳	9:30~11:50	7:30~8:50(男子) 競技終了後~18:00(女子)	7:30~9:20(女子)
トラック競技	競技終了後の後片付けが 終わった後※1~18:00※2	7:30~8:50 競技終了後の後片付けが 終わった後※1~18:00※2	7:30~8:50

※1 競技場の状況を担当競技役員が確認し、主競技場を練習会場として開放することを、放送で知らせる。

※2 競技終了後の後片付けが終わった後、18:00まで、主競技場で走高跳、走幅跳、三段跳の練習は可能である。ただし、必要な用器具(練習用)を、使用する競技者が準備し、最後まで後片付けること。

※競技会第2日・第3日の棒高跳の練習会場は、主陸上競技場とする。

(競技会第2日・第3日に、サブグラウンドに棒高跳用のマット・支柱等を設置しないため)

サブグラウンド

	7月6日(金)	7月7日(土)	7月8日(日)
	9:00~17:00	7:30~17:00	7:30~15:00

※走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳の練習は、サブグラウンドで行うこともできる。

※投てき競技については、「投てき競技練習会場及び日程」を参照のこと。

投てき競技練習会場及び日程

の囲みは、その種目で練習会場を占有して使用することを示す

	7月6日(金)		7月7日(土)		7月8日(日)	
	サブグラウンド	投てき練習場=運動広場	サブグラウンド	投てき練習場=運動広場	サブグラウンド	
	砲丸投	やり投	砲丸投	やり投	砲丸投	やり投
7:00						
:30						
8:00				7:30 男子 円盤投	7:30 女子 砲丸投	7:30 男子 やり投
:30	9:00より前は使用不可			8:30	9:20	9:00
9:00				8:30 女子 円盤投	9:20	9:00
:30				10:00		
10:00	10:00 少年 男子B 砲丸投	9:30 少年男子共通 円盤投		10:00 男子 ハンマー投	12:30	9:00 女子 やり投
:30				12:00		
11:00						
:30						
12:00	12:10	11:40		12:00 女子 ハンマー投	12:30	12:30
:30				14:00		
13:00		11:40 少年男子A ハンマー投			12:30より後は 使用不可	
:30						
14:00		13:40				
:30						
15:00				14:00より 後は 使用不可		
:30						
16:00						
:30						
17:00						